

## 今号の内容

- 子ども達の学習の場
- 図録紹介「世界一の砲丸職人～辻谷政久氏のものづくり～」
- 夏休み古民家宿泊体験
- 百年前の生活を伝える渋谷定輔著『農民哀史』
- 秋のイベント予定

## 子ども達の学習の場

市民学芸員 岡田 栄子 しげこ

9月、2学期も始まりました。もう少しすると難波田城公園では社会科見学の時期になります。

「おはようございます！」元気な子ども達の声が公園内に響きます。市内の小学校3年生が昔のくらし体験の学習のため、秋冬に順次資料館にやってまいります。

石臼、機織り、脱穀または縄ない、そして昔の明かり体験を職員指導のもと、私達市民学芸員もお手伝いして学習を進めていきます。各担当者の説明の後、グループ毎に分かれそれぞれの体験に臨みます。

石臼体験では大豆を挽き、きな粉を作ります。大豆の煎り方の塩梅は難しいようで各学校様々です。それでも煎った大豆を子ども達が石臼に入れて回し始めると、石臼のある旧金子家住宅の土間いっばいにきな粉の香りがひろがります。挽いた粉を篩にかける様子にも興味津々。できあがると子ども達から嬉しそうな声があがります。

旧大澤家住宅では機織り体験です。細い一本の横糸を、あらかじめ機織り機に準備をした縦糸に通し

て布に織り上げていきます。子ども達が皆で協力しあっても織れるのは十数センチ。糸から布、着物に仕上げるまでの大変さが分かることでしょう。

脱穀または縄ない体験は古民家前の庭で実施。公園内の田んぼで取れた稲を使います。体験には市民学芸員も多数参加し、お手伝いをします。脱穀は千歯扱き、足踏み脱穀機を使用して、道具(機械)の進化、仕事の効率化を実感してもらいます。縄ないは脱穀した稲藁を利用して行います。皆大変苦労しますが、個々に教え完成させていきます。

最後は昔の明かり体験。昔の人々が一つの灯のもとで苦労しながら生活をしてきた様子、それが徐々に明るくなっていく過程を、雨戸を閉めて暗くした古民家を舞台に実感してもらいます。

このような昔のくらし体験で、現在の便利に生活できる環境のありがたさを感じ、今と昔の違いを学んで欲しいと思っています。

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

図録「世界一の砲丸職人〜辻谷政久氏のものづくり〜」

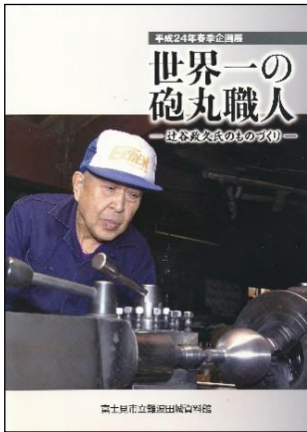
今年の夏は、パリ・オリンピックで世界中がわきあがりました。競技する選手たちの活躍に、感動した方も多いと思います。

競技の中には、器具を使うものもあります。その種目の一つが砲丸投げです。日本選手がメダルを獲得したことが無い種目ですが、アトランタ・シドニー・アテネと連続する過去三回の大会では、富士見市水谷東の町工場で作られた「砲丸」を、男子の金・銀・銅メダルに輝いた選手たちが投げていました。

それらの「砲丸」を製作したのが故辻谷政久氏です。当時、世界のアスリートたちから支持を得て、「飛ぶ砲丸」と呼ばれていました。

資料館では、ロンドン大会が催された二〇一二年に、「世界一の砲丸職人」と題して、企画展を開催しました。今回、ご紹介する図録には、世界を制した「飛ぶ砲丸」の歴史や技術・製作工程とともに、辻谷氏のものづくりの心が掲載されています。辻谷氏の職人としての思いは、講演会などでサインを求められると必ず「前進」という言葉を書か

れていたことから伝わります。世界に誇れる職人の熱い思いから生まれた「砲丸」は、資料館の穀蔵展示「富士見市の職人たち」の中で、今も見るができます。(古澤 立巳)



写真：穀蔵展示の様子(上)と図録表紙(下) 図録は300円で販売中

おもしろ・なつかし体験 [80]

夏休み古民家宿泊体験

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

毎年恒例の「夏休み古民家宿泊体験」が去る8月10～11日に行われました。

市内の小学4～6年生12名が参加し、約150年前の姿で移築復元した古民家に宿泊して昔の暮らしを体験しました。

「竹コップとお箸づくり」「五右衛門風呂体験」「手持ち花火」「七輪で鮭焼き」「スイカ割り」「ハンカチの藍染め」「流しそうめん」等々、盛りだくさんなプログラムです。

晩ご飯も自分たちで作ります。ベテランの市民学芸員の指導のもと、手打ちうどんに挑戦しました。こねて、足で踏んで、のして、切って、工程一つ一つをみんなで協力しておいしいうどんができあがりました。

晩ご飯のあとは「肝だめし」。城跡ゾーン・古民家をめぐるコースです。市民学芸員が腕によりをかけ企画・準備しました。

難波田城での体験が夏休みのよい思い出になればと願っています。(安藤 昭子)



みんなで作ったうどんを...



みんなで食べたよ!



おぼけはこわかった～



## 人の創ったもの★人の使ったもの

## 百年前の生活を伝える

しぶやていすけ のうみんあいし

### 渋谷定輔著『農民哀史』

#### 渋谷定輔とは

渋谷定輔（1905－1989）は、入間郡南畑村（現在の富士見市南畑地区）出身の農民詩人・農民運動家です。今からちょうど百年前に終結した「南畑小作争議」に一青年として参加していました。著作には詩集『野良に叫ぶ』（1926、平凡社）、『農民哀史』（1970、勁草書房）、『農民哀史から六十年』（1986、岩波書店）などがあります。彼の著作に関する資料や蔵書多数は、富士見市立中央図書館に渋谷定輔文庫として所蔵され、閲覧できるようになっています。

自作兼小作農家の長男として生まれた彼は、幼い頃から農業労働にあけていていましたが、17歳のときに小作料軽減要求の農民運動（南畑小作争議）に加わりました。その後、大正14年（1925）12月に創立された全国組織の農民自治会の主力メンバーとして本格的に農民運動を始めました。

『農民哀史』には、大正14年（1925）5月1日から昭和元年（1926）12月31日までの間に彼が記した日記が収録されています。この日記には小作農家の苦しさやその状況に立ち向かう彼の心情が綴られていますが、加えて日々の農作業や年中行事、食生活などの内容も数多く書かれています。今となっては聞き取り調査で聞くことができない、当時の事柄を知ることができる貴重な資料です。

以下に、私がこれまでに『農民哀史』の記述から抽出して紹介したテーマをご紹介します。

#### 百年前のわら仕事

平成17年（2005）春季企画展「わら繩のチカラ」では『農民哀史』にみる“わら仕事”（展示図録20～22ページに掲載）を紹介しました。34カ所に記述がありました。

農閑期の冬に繩ないや俵作りを行っているほか、雨の日に蓑を作ったり、夜なべ仕事でも繩ないをしていたことがわかります。繩ないや俵作りは主に父

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



『農民哀史』上下巻（左）と『農民哀史から六十年』（右）

親と定輔が担っていたこともわかります。また、ちょうど普及し始めた、作業を軽減できる足踏み式の製繩機（繩ない機）がどれほど大事な道具であったかがわかるエピソードもあります。

#### 百年前の年中行事

平成20年（2008）春季企画展「草屋根の年中行事」では『農民哀史』にみる年中行事（展示図録22～24ページに掲載）を紹介しました。大正14年5月1日から1年間で47カ所に記述がありました。

各行事の内容や厳しい肉体労働が続くなかで、農休日（遊び日）になる年中行事の日がいかに楽しみだったのかということがわかります。また、年中行事とは少しちがいますが、水田の用排水路浚い（掃除）といった集落の共同作業の後にウドンなど特別な食べ物を作って食べることの楽しさが伝わります。

#### 百年前の食生活

平成17年（2005）3月に文教大学が発行した『生活科学研究』27号では「渋谷定輔著『農民哀史』にみる大正時代の食生活」を紹介しました。

大正14年5月1日から15年7月31日までの間に食べ物の記述は77カ所ありました。用途で分類し、日常的に食べたものの他、薬用、災害時、ごちそう、土産、外食にわけました。毎日の食事は、米とヒキワリ（大麦を石臼でひいて砕いたもの）を一緒に炊いた「麦割飯」でした。

今年は南畑小作争議終結から百年。秋季企画展「作って食べる むかしの道具」（10月19日開始）でも、『農民哀史』に書かれた当時の食生活を紹介しようと考えています。（駒木 敦子）

## \*\*秋のイベント予定\*\*

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

### ●令和6年秋季企画展

#### 「作って食べる むかしの道具」

50年～100年くらい前の道具から「食べ物を作る」ことを振り返ります。

会期／10月19日(土)～令和7年1月13日(祝)

### ●企画展関連イベント

#### 「新米をカマドで炊いて食べよう！」

日時／11月24日(日)午前9時30分～正午

定員／20人(申込み順) 参加費／100円(材料代)

申込み／11月2日(土)午前9時から電話で

### ●富士見市児童・生徒社会科展

市内小中学生による、夏休みの自由研究の作品を展示します。各校から選ばれた約80作品です。

会期／9月28日(土)～10月6日(日)

### ●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき／9月14日(土) 午前10時～正午

定員／8組(申込み順) 参加費／1組500円

会場／旧金子家住宅 協力／市民学芸員

申込み／9月1日(日)～10日(火)に電話で

### ●ふるさと探訪 河越氏館跡周辺を歩く

とき／10月26日(土) 午前8時50分～正午

集合／東上線霞ヶ関駅北口 定員／20人(申込順)

主な見学地／旧東上鉄道入間川鉄橋、常楽寺、国指定史跡河越館跡 参加費／500円(当日集金)

申込み／10月1日(火)～26日(木)に電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

### ●さつまいも掘り

とき／10月27日(日) 午前10時～、午前11時～  
(雨天決行)

集合／旧金子家住宅前 定員／各16組(申込順)

参加費／1,000円

申込み／10月5日(土) 午前9時から電話で

主催／難波田城公園活用推進協議会

### ●古民家コンサート「秋風に琵琶の調べ」

とき／10月27日(日) 午後2時～2時30分

定員／30人(先着順) 参加費／無料

会場／旧大澤家住宅 申込み／当日受付

出演／芸能研究会

主催／難波田城公園活用推進協議会

### ●ちよこつと体験「拓本をとろう」

とき／11月10日(日)午後1～3時の間で20分程度

定員／なし 参加費／無料 会場／講座室

指導／資料館友の会拓本部会

### ●ミニほうきづくり

とき／11月17日(日) 午後1時～3時20分

会場／講座室 対象／中学生以上

定員／10人(応募多数の場合は市内在住者優先)

指導／ほうき作り伝承会

申込み／11月1日(金) 午前9時から電話で

### ●麦づくり体験(全7回)

公園内の田畑で麦を育てます。育てた麦は小麦粉や麦茶にして試食・持ち帰りができます。

とき／11月9日、1月25日、3月1日(または4月12日)、5月24日、6月7日、6月28日、7月13日(最終回は日曜、他は土曜)

定員／10組(1組4人以内、申込順)

参加費／1組500円(食材費等)

協力／難波田城いきものがかり

申込み／10月1日(火)から電話で

### ●扇だこ講習会(全2回)

かつて富士見市の特産品として知られた郷土民芸「扇だこ」を骨組みから絵付けまで作ります。

とき／12月7日(土)・8日(日)

全2回 午前10時30分～午後3時

定員／4人(中学生以上、申込順)

参加費／1,000円(材料代)

会場／講座室

指導／富士見市扇だこ保存会

持ち物／エプロン(前掛け)、昼食

申込み／11月1日(金)から電話で



### ●ちよつ蔵市(波田城公園活用推進協議会主催)

9月29日(日)ぼたもち

10月27日(日)ふかしいも

11月はお休み

※11時より販売。売り切れ次第終了

※各イベントの詳細は広報「富士見」または資料館公式サイトを御覧ください。

田舎まんじゅう販売  
第1.3日曜日 10:30～



富士見市立難波田城資料館

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

[https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi\\_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html](https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html)

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

資料館公式サイト

